

研究紀要・年報

縄文の森から

From JOMON NO MORI

第5号

《研究ノート》

平底円筒形押型文土器に関する一考察
今村 結記

縄文時代の安山岩製スクレイパーについて
桑波田 武志

鹿児島県における古墳時代の鍛冶関連資料の紹介
黒川 忠広

古代から中世における遺構の方向
—農業開発総合センター遺跡群を事例として—
東 和幸

鹿児島県内の平安時代の土器供膳具の様相
—川内平野の資料を中心に—
岩元 康成

赤色顔料の原料採取地を求めて
—鹿児島県上水流遺跡・関山遺跡の例から—
内山 伸明・橋本英樹ほか

トレハロースを用いた木製品の保存処理 (I)
永濱功治・内山伸明・中村幸一郎

鹿児島県の埋蔵文化財調査におけるデジタル技術導入の現状と課題
—埋蔵文化財センターの取り組みを中心に—
馬籠 亮道

埋蔵文化財を活用した授業の展開
國師 洋之

《資料紹介》

豎野冷水窯跡出土遺物の追加報告
—物原 I を中心に—
関 明恵

西ノ平遺跡出土墨書土器
長崎 慎太郎

荘上遺跡出土資料
—その1—
森 幸一郎

科学分析報告一覧
南の縄文調査室

放射性炭素年代測定集成
内山伸明・園田ひとみ・長野真一

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2012. 3

縄文の森から 第5号

平底円筒形押型文土器に関する一考察 今村 結記	1
縄文時代の安山岩製スクレイパーについて 桑波田 武志	8
鹿児島県における古墳時代の鍛冶関連資料の紹介 黒川 忠広	16
古代から中世における遺構の方向 - 農業開発総合センター遺跡群を事例として - 東 和幸	28
鹿児島県の平安時代の土器供膳具の様相 - 川内平野の資料を中心に - 岩元 康成	37
赤色顔料の原料採取地を求めて - 鹿児島県上水流遺跡・関山遺跡の例から - 内山伸明・橋本英樹・古谷充章・團野瑛章・辻広美・高田潤	47
トレハロースを用いた木製品の保存処理 (I) 永濱功治・内山伸明・中村幸一郎	55
鹿児島県の埋蔵文化財調査におけるデジタル技術導入の現状と課題 - 埋蔵文化財センターの取り組みを中心として - 馬籠 亮道	59
埋蔵文化財を活用した授業の展開 國師洋之	69
〈資料紹介〉 豎野冷水窯跡出土遺物の追加報告 - 物原 I を中心に - 関 明恵	75
〈資料紹介〉 西ノ平遺跡出土墨書土器 長崎 慎太郎	87
〈資料紹介〉 荘上遺跡出土資料 - その1 - 森 幸一郎	95
科学分析報告一覧 南の縄文調査室	99
放射性炭素年代測定集成 内山伸明・園田ひとみ・長野眞一	106

〈資料紹介〉 荘上遺跡出土資料

— その 1 —

森 幸一郎

Relics Excavated from Shokami Site (No.1)

Mori Koichiro

1 はじめに

荘上遺跡は鹿児島県出水市荘上に所在する。遺跡は出水平野を形成する扇状地の西端、標高10~13mに立地する。付近には、縄文時代前期の貝塚である荘貝塚や、縄文時代後期~近世の複合遺跡である外島遺跡などが位置している(第1図)。

荘上遺跡は昭和50年度(1975年度)に、鹿児島県教育委員会により発掘調査が実施されている。その際、土師器や陶磁器類、縄文土器、石器等がパンケース4箱分出土している。しかし、現在まで報告書が刊行されておらず、調査成果は未発表となっている。

筆者は荘上遺跡に近接する外島遺跡の発掘調査・整理作業を通して、荘上遺跡の出土資料との比較検討が必要であると感じた。そこで本稿では荘上遺跡出土資料その1として、土師器・瓦質土器・陶磁器・青花類を紹介する。

2 土師器¹⁾(第2図・表1)

土師器は15点を紹介する。1・2は、体部が丸味を帯び、口縁部が先細りする。体部外面には回転ナデによる凹凸が明瞭に残る。10~11世紀代の坏もしくは碗と考えられる。

3は黒色土器A類である。器種は碗で、器壁がやや厚

手で、体部は丸味を帯びる。10世紀後半のものと判断される。

4は、底部の切り離し技法がヘラ切りで、切り離し後に底部外面にナデが施されている。体部の立ち上がりの外傾がきついことから、皿と考えられる。

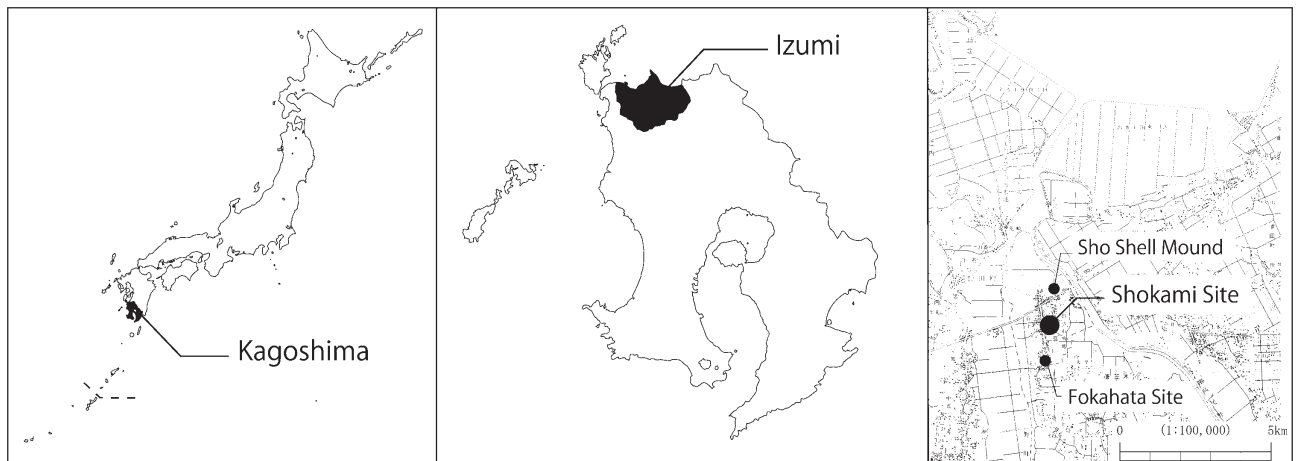
5~12は、底部切り離し技法が糸切りでの坏と小皿(12)である。5・6は坏で、底部から体部の立ち上がりは稜を伴い、体部は直線的である。7や8と比較して器壁が薄手である。

7は、底部から体部の立ち上がりがやや丸味を帯び、器壁がやや厚手である。8は、内底面の中央が薄く仕上げられる。9は、色調が灰褐色を呈し、胎土に1~5mm程度の白色鉱物を多く含む。器壁が厚手で、体部は外傾するようである。10・11は詳細不明である。

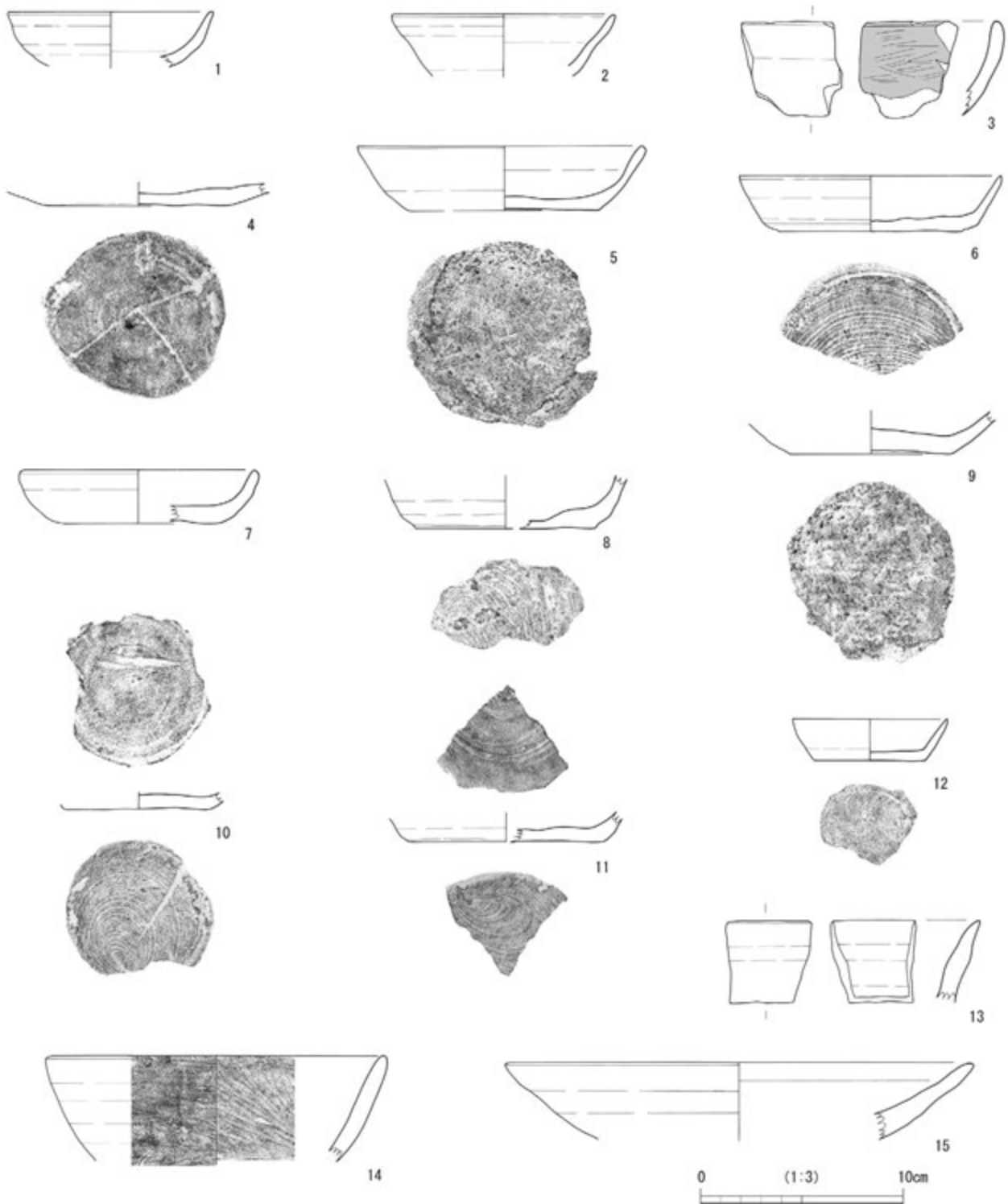
12は小皿である。底部から体部は稜をもって立ち上がり、体部は直線的である。5・6とセットの関係にあると考えられ、時期は14世紀~15世紀前半と考えられる。

13は、器種は不明だが、口縁部は先細りする。14は碗だが、器壁が厚く、内外面に丁寧なナデが施される。15は大皿と想定される。

糸切り底の土師器の年代は、その形状から13世紀~15世紀の間に比定されると考えられるが、詳細な年代は今後の検討課題である。



第1図 荘上遺跡の位置



第2図 荘上遺跡出土遺物（1）

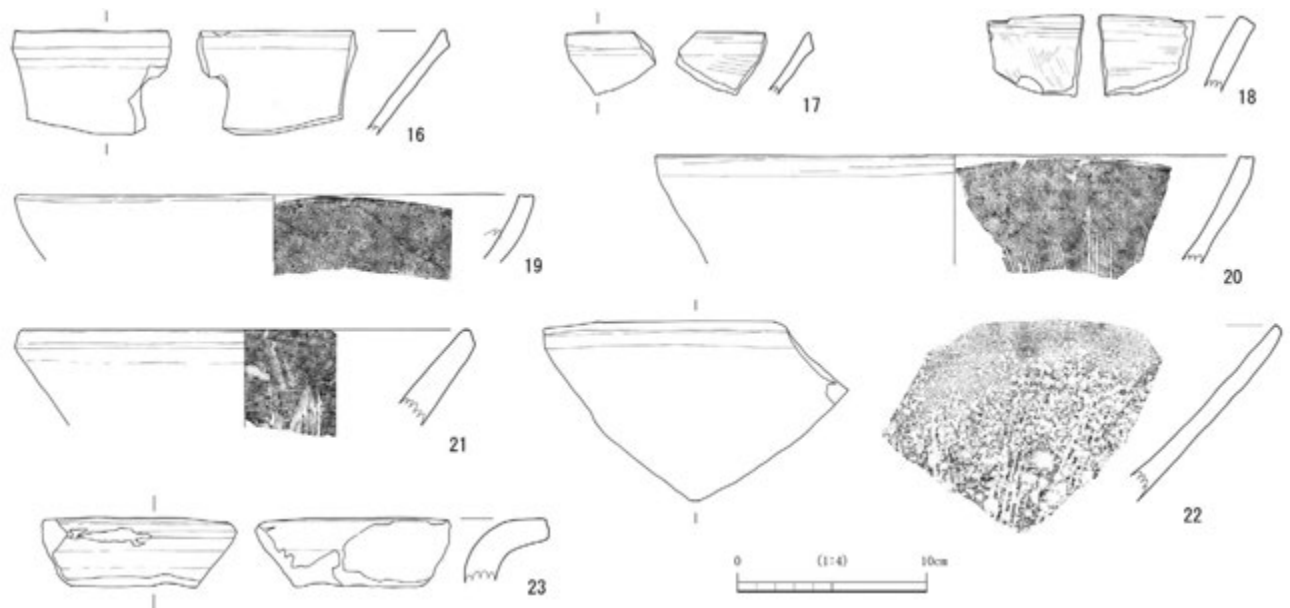
3 瓦質土器類（第3図）

16・17は捏鉢である。口縁部は肥厚し明瞭な稜を持ち、断面三角形状になる。東播系の可能性があるが、確証は得られなかった。18～22は搦鉢である。口唇部は面取りされ平坦に仕上げられる。14～15世紀代のものと考えられる。23は甕である。

4 陶磁器類・青花²⁾（第4図）

24・25は、玉縁状の口縁で、大宰府編年の白磁椀Ⅳ類である。26は、白磁で景德鎮産である。口縁部が外反することから、森田勉氏の分類のE群に相当する。

27～30は龍泉窯系の青磁の椀である。27は、外面に蓮弁文が描かれる。大宰府編年の青磁椀Ⅳ類である。28・



第3図 荘上遺跡出土遺物（2）

29は、高台が低く、底部が肉厚であることから、青磁椀Ⅰ類と判断した。29の見込みには劃花文が彫られている。30は、高台にやや高さがあるので、青磁椀Ⅳ類と考えられる。

32・33は外面口縁部付近に雷文帯を持つ。上田秀夫氏による分類のC類に相当する（上田1982）。31は青磁の椀だが、釉薬の色調が薄い黄緑色を呈し、施釉も薄く、質が悪い。詳細は不明である。34は内面に施釉が認められないので、壺と考えられる。

35～37は、青花である。35はいわゆる碁笥底を呈する。時期はいずれも16世紀後半である³⁾。

38は肥前系の陶器と考えられる。39・40は薩摩焼の甕で、苗代川系のものである。時期は18世紀後半から19世紀に比定される⁴⁾。

5 おわりに

以上、荘上遺跡の出土遺物について紹介を行った。土師器では、底部切り離しがヘラ切りのものは少なく、糸切りのものが大部分を占めた。その他の遺物も含めて、中世を通して満遍なく遺物の出土がみられた。荘上遺跡周辺には、荘貝塚や外島遺跡など中世の遺物が出土する遺跡がみられる。今後、それらの遺跡との比較検討が必要であろう。なお、本稿で紹介した遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管されている。

最後に、本稿を執筆するにあたって、上床真、関明恵、

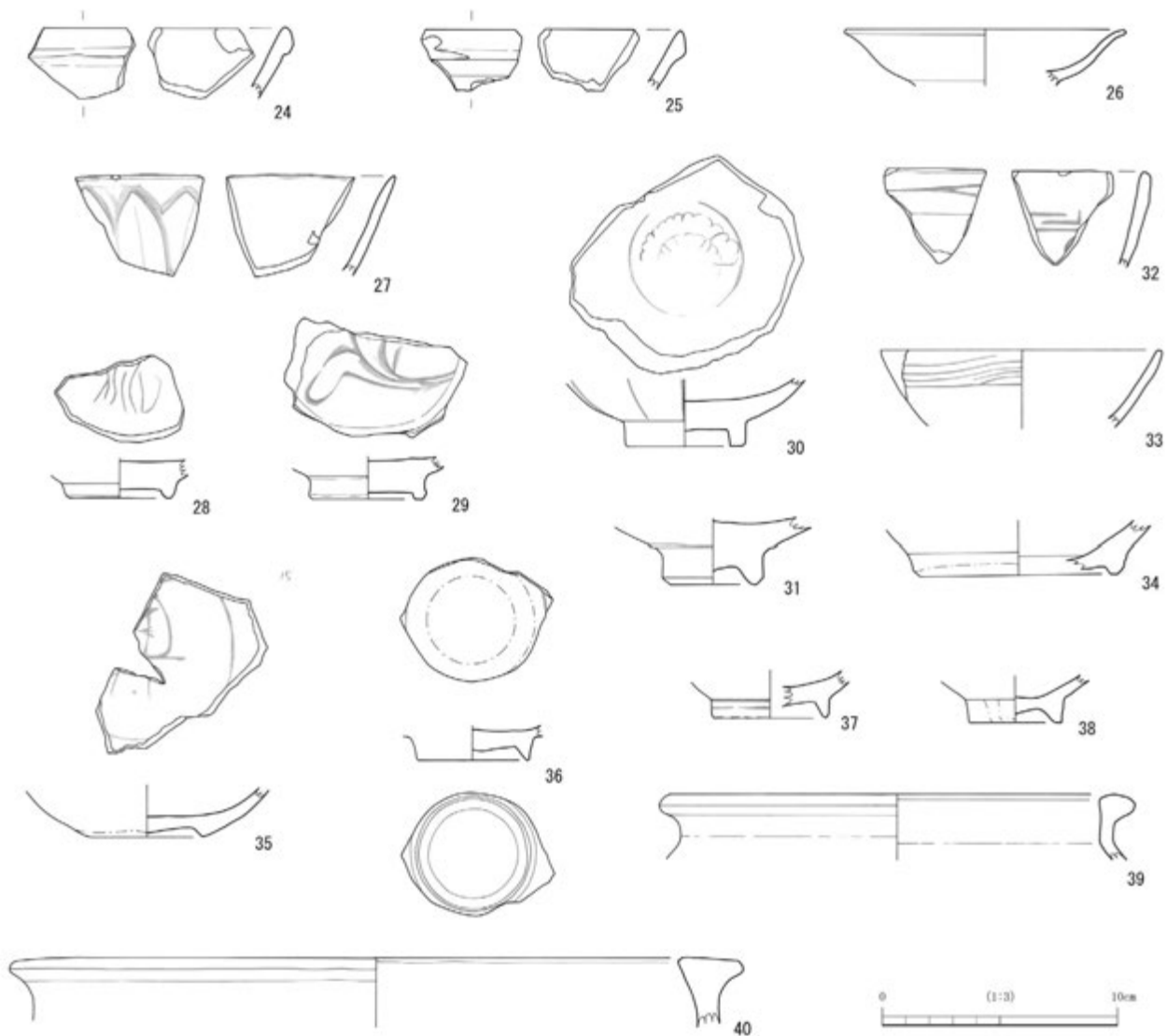
長野眞一、馬籠亮道、森田郁朗の各氏に御指導・御協力を頂きました。末筆ながらお礼を申し上げます。

【註】

- 1) 土師器の分類及び年代は、岩元 2009, 中村 2007, 森 1989, 鹿埋セ 2004 を参考にした。
- 2) 陶磁器・青花類の分類は、上田 1982, 森田 1982, 太宰府市教育委員会 2000 を参考にした。
- 3) 関明恵氏の御教授による。
- 4) 関明恵氏の御教授による。

【引用・参考文献】

- 岩本康成 2009「鹿児島県における12～17世紀の土師器」『南の縄文・地域文化論考』南九州縄文研究会・新東晃一代表還暦記念論文集刊行会
- 上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁椀の分類」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2004『九養岡遺跡・踊場遺跡・高篠遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(71)
- 太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV - 陶磁器分類編 -』太宰府市の文化財第49集
- 中村和美 2007「南九州の土器・陶器」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』補遺編「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年」実行委員会
- 森隆 1989「九州系黒色土器の器形的系譜に関する若干の覚書 - 畿内系黒色土器との対比における -」『古文化談叢』九州古文化研究会
- 森田勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会



第4図 荘上遺跡出土遺物 (3)

第1表 土師器法量

番号	分類・器種等	法量 (cm)			色調		焼成	備考
		口径	底径	器高	内面	外面		
1	土師器・坏?碗?	10.2	—	—	浅黄色	浅黄色	良	
2	土師器・坏?碗?	11.0	—	—	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	
3	黒色土器A類・碗	—	—	—	黒色	浅黄橙色	良	
4	土師器・坏	—	9.0	—	浅黄橙色	にぶい黄橙色	良	
5	土師器・坏	14.0	9.4	3.2	橙色	橙色	良	
6	土師器・坏	13.0	9.2	2.8	橙色	橙色	良	
7	土師器・坏	11.6	8.0	2.7	浅黄色	浅黄色	良	
8	土師器・坏	—	9.0	—	橙色	橙色	良	
9	土師器・坏	—	8.1	—	灰褐色	灰褐色	良	
10	土師器・坏	—	7.4	—	橙色	橙色	良	
11	土師器・坏	—	9.6	—	褐灰色	にぶい黄橙色	良	
12	土師器・小皿	7.7	5.6	2.1	橙色	にぶい橙色	良	
13	土師器・坏?・碗?	—	—	—	浅黄色	浅黄色	良	外面に煤付着
14	土師器・碗	16.8	—	—	明黄褐色	明赤褐色	良	内外面ミガキ
15	土師器・大皿	23.2	—	—	浅黄色	浅黄色	良	

鹿児島県立埋蔵文化財センター

研究紀要 **縄文の森から** 第5号

発行年月 2012年3月
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811
E-mail minami@jomon-no-mori.jp
URL <http://www.jomon-no-mori.jp>
印刷 (有) 国分新生社印刷
〒899-4301
鹿児島県霧島市国分重久 627-1
